

平成 29 年 9 月 5 日

## 平成 28 年度 学校関係者評価委員会報告

学校法人平成医療学園  
なにわ歯科衛生専門学校  
学校関係者評価委員会

学校法人平成医療学園 なにわ歯科衛生専門学校 学校関係者評価委員会は、平成 28 年度自己評価報告書に基づき、学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

### 記

#### 1 学校関係者評価委員 出席者

(外部委員)

品田 和子 (公益社団法人 大阪府歯科衛生士会 専務理事)  
藤川 みどり (五條歯科医院 事務長・歯科衛生士)

(内部委員)

雫石 聡 (なにわ歯科衛生専門学校 校長)  
淵端 孟 (なにわ歯科衛生専門学校 名誉校長)  
岡田 光司 (なにわ歯科衛生専門学校 担当理事・顧問)  
松本 啓子 (なにわ歯科衛生専門学校 教務顧問)  
中西 久美江 (なにわ歯科衛生専門学校 教務主任)  
吉岡 裕美子 (なにわ歯科衛生専門学校 教務主任)

当日欠席者

小谷 泰子 (医療法人美和会 平成歯科クリニック院長・大阪府歯科医師会 理事)  
宮内 修平 (みやうちデンタルクリニック 院長・日本歯科審美学会 会長)  
吉岡 宏之 (株式会社ヨシオカ 代表取締役社長)  
亀岡 伸行 (株式会社ヨシオカ 取締役 営業部部長)

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

開催日:平成 29 年 9 月 2 日(土) 14 時 00 分～16 時 10 分

開催場所:なにわ歯科衛生専門学校 2 階会議室

#### 3 学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

以上

## I 重点目標について

本校は歯科衛生士の人材育成が目標であり、当然それに必要な知識技能を修得するとともに、医療人としての人間性を重んじた教育を念頭においている。

現在、ますます高齢化社会が進んでおり、それに対応する歯科衛生士として業務も深化している。歯科医療現場に携わる講師を招致したり、老人ホーム等多岐に渡る臨床実習を行ったりしているが、時代の動きが早く、ニーズに追いついていないのが現状である。

業界の方の力も借り、ニーズにこたえられる歯科衛生士の育成に努めていく。(委員長)

業界としても同様の問題を抱えており、卒業しても何をしたらいいかわからない、就職しても歯科衛生士自体を辞めてしまうといった方もいる。厚労省からも辞職防止や復職支援に力を入れるよう話が出ており、対応に努めている。仕事をしていけば楽しいこともあるのに、知らないままではもったいない。(外部委員)

人間性の育成について。医療現場では人間同士の繋がりがあり、本校卒業生(で就職した者)もしっかりしているのだが、3年制になってからはそれが感じにくい。昔の方が厳しかったのか、就職したときにめげてしまうこともある。現場の厳しさをどこまで許容できるか、耐えられるかといったことも人間性育成面での課題である。(外部委員)

## II 各評価項目について

項目	評価
基準1 教育理念・目的・ 育成人間像	学校理念について再確認をした。
基準2 学校運営	現在の運営状況について再確認をした。
基準3 教育活動	どこの学校もだと思われるが、学生のレベルにバラツキがある。卒業しても、できる者とできない者とに分かれ、個別対応が必要と思われる。学生一人ひとりの背景(家庭環境や年齢、職歴など)が異なり、学生のニーズも幅広い。 現場でも、読解力・文章力が乏しいスタッフが増えており、カリキュラムとしてそのようなものを入れられないか。
基準4 学修成果	学生個々にきめ細かい対応ができており、卒後まで就職先の確認ができているのは評価できる。
基準5 学生支援	人間関係や家庭環境なども複雑化しており、学校として様々な対応が必要であると同時に、業務的な大変さを感じる。

	また対学生だけではなく保護者等の対応も多いということで、いろいろと苦 労があるのではないかと。
基準6 教育環境	老朽化対応や視聴覚設備の充実などの検討があり、今後に生かして欲しい。
基準7 学生の募集 と受入れ	入試については面接試験が主体であり、客観的な評価のできる面接官の 育成を検討課題に掲げているので、取り組みを行って欲しい。
基準8 財 務	現在の法人全体の財務状況について確認をした。
基準9 法令等の遵守	個人情報の取り扱いについては、学校に限らずどこでも課題となっている 。名簿が作成できなかつたり、スタッフや患者さんの情報管理が漏れな いか神経を使ったりしている。学校でも成績を始め各種学生データを取り 扱っており、苦労はよく理解できる。
基準 10 社会貢献 ・地域貢献	老人ホーム実習などの現状について確認した。
その他 国際交流	ロス研修のほか、中国からの研修生を受け入れたことについて報告及び 確認をした。

### Ⅲ 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価結果は、外部から見る本校の客観的な状況として捉え、今後の学校運営を考  
える大切な情報であると認識している。よって学校関係者評価結果は、それらの内容に応じた部  
門で共有され、各部門会議(運営者会議、教務委員会、教職員会議等)により、今後の課題の  
抽出や対応策の検討に役立てられている。

項 目	評 価
基準3 教育活動	授業のアンケートを取るようにしているが、できていない科目もある。カリキュラ ムとしては、看護師の業務記録を取り入れ、実習先や病院で有効的に活用で きるようにしている。
基準4 学修成果	就職については希望アンケートを都度取るようにし指導に当たっている。
基準5 学生支援	学生健康診断について平成 29 年度より歯科健診も取り入れた。
基準6 教育環境	視聴覚設備の充実化を進めている。
その他 国際交流	中国の杭州口腔医院看護師との合同講義を継続して実施しており、今後の 定期的な交流が期待される。

以上